

### 1. 生成 AI の影響、私の思い

■ **創作** ・創作とは何か？ 創作のありかたを変えようとしている

- ・AI が人の創作を手伝ってくれる。新たな表現の可能性を拡げる
- ・将棋の藤井さんにおける AI 活用の道も参考になる。

- ・描きたいことへの思いや意図を明確に持ち続ける。
- ・改めて創作の意味、価値、大切さに気づきましょう。

■ **創作支援** ・24 時間、快く対応してくれるアイデア出しのパートナー

- ・誰でも手軽に：鍛錬や試練がなくても手軽に精緻な画像ができる
- ・講師に頼らず、一般的な絵画の評価を短時間でそつなく行う

- ・使える AI ツールはすべて適正に使う。
- ・道具として棲み分けして、相手に向き合う時間を増やす。

### 2. 植物画への生成 AI の活用例：

#### MidJourney による生成例

- ・適切な Prompt を指示すれば希望に近い画像を生成できる。
- ・それで？ 何がうれしいの？
- ・イラスト制作には便利だが。
- ・创作者の創作体験の満足とは別物。
- ・新たな画像イメージを拡げ、簡単に気づかせてくれるのは良いが。



### 3. 画像生成 AI が及ばない領域：

今更ながら創作の先達に共感する。

**Albrecht Dürer(1471-1528) 北方ルネサンス期**

- ・自然の中にこそ真実の kunst がある、という信念。
- ・素直な気持ちで自然から学ぶことを指導。
- ・自然から離れた自己流の kunst は必ず行き詰まる。

**熊谷守一(1880 - 1977)**  
見えない生を描く創造の源泉

- ・死に出会い、生きるということは何かを追い求めた。
- ・無形の領域を描くこと。作品に生命力は宿る。
- ・庭の中で、じっと観て、絵を描くことだけに没頭。

**野田弘志(1936-) 真理のリアリズム**

- ・存在するという、生きてそこにいることのおそさを、描くことにより知る。
- ・物が在ることを、見えるとおりに感じるとおりに、描くことを通じて確かめる。
- ・写真を見て描くと様々な勘違いがうまれ、重要な内容が身に付かない。

### 4. エジプト、アルタミラ以来の絵画制作の歴史と主なエポック :ChatGPT

**昇司** あなたは世界の美術の歴史、絵画創作に影響を及ぼした新技術の歴史に精通したプロフェッショナルです。アルタミラの洞窟画、古代ギリシャでの絵画、中世の絵画、ルネサンスにおける絵画という歴史の中で、印刷技術に進歩、産業革命、写真機の登場が絵画制作に及ぼした影響を教えてください。

**🌀** 美術の歴史は、人類の歴史とともに進化してきました。その中で、技術の進歩は絵画の制作方法やスタイル、さらにはその意義に大きな影響を与えてきました。以下に、指定された時期と技術の進歩との関連を説明します。

**アルタミラの洞窟画：**これは約 1 万 8000 年前から 1 万 3000 年前の旧石器時代に描かれたとされる洞窟画です。技術の進歩というよりは、最初の芸術的表現としての位置づけが強い。人々は自然の素材を使用して、動物や手の形などを描写した。

**古代ギリシャの絵画：**古代ギリシャの絵画は、主に壁画や陶器に描かれました。この時期には、遠近法や人体の正確な描写などの技術が発展しました。しかし、印刷技術や産業革命の影響はまだありません。

**中世の絵画：**中世の絵画は、宗教的なテーマが中心。この時期には絵画の材料や技術が進化し、より詳細な表現が可能になった。しかし、印刷技術の登場により、聖書や他の宗教的なテキストが大量生産されるようになり、絵画の役割や意義が変わり始めました。

**ルネサンスの絵画：**この時期には、遠近法や解剖学に基づく人体の正確な描写などの技術が大きく進化しました。また、印刷技術の発展により、芸術や科学の知識が広まり、多くの人々がそれにアクセスできるようになりました。

**産業革命：**産業革命の時代には、新しい製造技術や材料が登場しました。これにより、絵画の材料やツールが多様化し、新しいスタイルや技術が生まれました。また、都市化や工業化が進む中で、絵画のテーマやスタイルも変わり始めました。

**写真機の登場：**19 世紀に写真が発明されると、絵画の役割や意義が大きく変わりました。写真がリアルな現実の描写を可能にしたため、絵画はより抽象的な表現や新しいスタイルに挑戦するようになりました。これにより、印象派や象徴派などの新しい芸術運動が生まれました。

以上のように、技術の進歩は絵画の制作方法やスタイル、さらにはその意義に大きな影響を与えてきました。美術の歴史は、人類の文化や社会の変遷と密接に関連しており、その背景には常に技術の進歩がありました。

昇司 産業革命における絵画の材料やツールは絵画の創作に具体的にどんな変化を及ぼしましたか？

産業革命に伴う技術の進歩や新しい材料の登場は、絵画の制作や表現に以下のような具体的な変化をもたらしました：

絵の具の変化： 産業革命以前の絵の具は、天然の顔料を基にしたものが主でした。

- ・しかし、19世紀に入ると化学的な方法で生産される合成顔料が登場しました。
- ・これにより、より鮮やかで安定した色彩を持つ絵の具が普及し、画家たちの色彩表現が豊かになりました。
- ・チューブ入りの油絵の具もこの時期に登場。これにより、画家たちが屋外での制作を行いやすくなり、印象派の画家たちによる風景画が盛んになりました。

新しいキャンバスと下地： 産業革命によって、リネンや綿を使ったキャンバスの生産が増加しました。

- ・これにより、キャンバスがより安価になり、多くの画家たちが大きな作品を手軽に制作できるようになりました。

新しい技術の導入： 産業革命の時代には、鉄道や蒸気船などの新しい交通手段が登場しました。

- ・これにより、画家たちが遠くの地へ容易に旅行できるようになり、異なる文化や風景に触れる機会が増えました。
- ・この結果、異国情緒を持つ作品や、異なる地域の風景を描いた作品が増加しました。

写真の影響： 19世紀半ばに写真が登場すると、絵画の役割や意義に大きな変化が生じました。

- ・写真がリアルな描写を可能にしたため、絵画は抽象的な表現や感情の描写に重点を置くようになりました。

これらの変化は、絵画の制作方法やスタイル、さらにはその意義や価値観に大きな影響を与えました。産業革命は、絵画だけでなく、多くの芸術分野に変革をもたらした重要な時期でした。

昇司 写真機が登場しても、絵画が消滅しない理由はなぜでしょうか？

写真機の登場は、絵画の役割や芸術の意義に大きな変化をもたらしましたが、絵画が消滅しなかった理由は複数あります。以下にその主な理由を述べます：

異なる表現の自由度： 絵画は写真よりも表現の自由度が高い。

- ・画家は色彩、筆使い、形、スタイルなどを自由に操ることで、具体的な物事だけでなく、感情や哲学、抽象的なアイデアを表現することができます。これは写真が持つリアリズムにはない、絵画独自の特性です。

感情や解釈の深度： 絵画は、画家の感情や解釈を深く反映するメディアです。

- ・写真も撮影者の視点や感情を反映できるが、絵画はそれをさらに深く、そしてより直接的に表現することができる。

歴史的・文化的背景： 絵画は、古代から現代までの数千年の歴史と文化的背景を持っています。

- ・これは人々の記憶や価値観に深く根付いており、写真の登場だけでその価値が失われることはありません。

技術的な限界： 初期の写真技術は、色の再現や瞬時の動きのキャッチなどに限界がありました。

- ・そのため、絵画はそのような表現のニッチを埋める役割を持っていました。

絵画と写真の相互作用： 写真の登場により、絵画は新しいスタイルや技法を探求するようになりました。

- ・印象派や抽象芸術などの新しい芸術運動が生まれる背景には、写真との関係も影響しています。
- ・逆に、写真も絵画の技法や構図から影響を受けて進化してきました。

個人の手触りと独自性： 絵画には、画家の手の動きや筆使いがそのまま反映される。

- ・そのため、一つ一つの作品に独自の個性や魅力があり、これは機械的なプロセスで生まれる写真とは異なる。

以上のような理由から、写真機の登場後も絵画はその価値と意義を維持続けています。写真と絵画は、それぞれ異なる魅力や表現の可能性がある芸術メディアとして共存してきました。

昇司 写真の分野の中でもアートの分野が存在する理由は何でしょうか？

写真の分野内でアートの分野が存在する理由は、以下の要点に集約されます：

写真の多様性： 写真は、その基本的な性質上、リアルな物事を捉えるメディアですが、それだけではありません。

- ・写真家は撮影の角度、照明、構図、後処理など、多くの要素を操作して、独自の視点やメッセージを表現できる。

個人的解釈と視点： 写真は、撮影者の個人的な解釈や視点を強く反映します。

- ・同じシーンや被写体を撮影しても、異なる写真家が撮影すれば異なる作品が生まれることが多い。

- ・このような写真家の個性や視点が、写真をアートとしての表現へと高めています。

感情の表現： 良い写真は、単なる被写体の記録以上のものを伝えることができます。

- ・写真家の感情や思考、あるいは撮影の瞬間の雰囲気や背景など、多くの要素が作品に反映され、それを見る人々の感情や思考にも影響を与えます。



技術と芸術の融合：写真は、技術と芸術の融合として捉えることができます。

・カメラやレンズの選択、露出や焦点の調整などの技術的な側面と、構図や色彩、主題の選択などの芸術的な側面が組み合わさって、一つの作品が生まれます。

社会的・文化的コンテキスト：写真は、社会や文化の状況を強く反映します。

・歴史的な出来事や時代のムード、特定の場所やコミュニティの特性など、多くのコンテキストが写真に影響を与え、それがアートとしての価値を生む要因となります。

写真の進化：写真の技術や表現方法は、その歴史の中で常に進化してきました。

・この進化の過程で、新しいスタイルや技法、そして新しいアートの分野が生まれてきました。

以上のような理由から、写真はアートとしての分野を持っています。写真は、単なる記録メディアではなく、独自の表現力や魅力を持つ芸術形態として認識されています。

## 5. 生成 AI が普及すると人はなにをすればよいのか

昇司

では、最近登場した画像生成AIが絵画の創作に及ぼす影響について教えてください。人は創作をしなくても自分の期待するイメージを具現化できるので、創作しなくてもよくなるのでしょうか？



画像生成AI、特にGenerative Adversarial Networks (GANs) のような技術は、近年、絵画やデザイン、映像などの創作活動に革命的な変化をもたらしています。以下に、画像生成AIが絵画の創作に及ぼす主な影響を述べます。

高速なプロトタイプング：AIは、短時間でさまざまなデザインやイメージのプロトタイプを生成することができます。

・これにより、アーティストやデザイナーはアイデアの実現性を迅速に確認したり、インスピレーションを受けられる。

高度なカスタマイゼーション：

・ユーザーは、AIに具体的な指示や条件を与えて、個別のニーズや好みに合わせた作品を生成することができます。

新しいスタイルの発見：AIは、従来のアートやデザインのスタイルを超えて、新しいスタイルや技法を発見できます。

・これにより、アートの世界に新しい風が吹き込む可能性があります。

複製とオリジナリティの問題：AIが生成した作品は、オリジナリティや著作権の観点から問題となる場合があります。

・どこまでがオリジナルで、どこからがAIの生成物であるのか、その境界が曖昧になることが予想されます。

教育の効率化：初心者や技術やスキルを学ぶ際に、即座に結果を得ることで、学習の効率やモチベーションを向上する。

・しかし、画像生成AIが絵画の創作に革命をもたらしているとはいえ、以下の点を考慮する必要があります。

人間の感性とAI：人間の感性や経験、感情は、AIが模倣することはできても、真に理解や体験することはできません。

・このため、人間独自の感情や哲学、深い意味を持った作品を創る能力は、AIには持ち合わせていないと考えられます。

創作の過程の価値：創作活動は、結果だけでなく、過程自体にも大きな価値があります。

・思考の過程や試行錯誤を経ることで、アーティスト自身が成長したり、新しい発見をしたりすることがあります。

・AIが即座に結果を出すことで、このような過程が省略されることが予想されます。

人間の役割：AIが高度な創作活動を行うようになって、その背後には人間の意図やディレクションが必要です。

・AIはツールとしての側面が強く、最終的な意思決定や方向性を決めるのは人間であると考えられます。

結論として、画像生成AIは絵画の創作に新しい可能性をもたらしていますが、それがアートの全てを置き換えることはないでしょう。人間の感性や哲学、感情など、AIが持ち得ない要素が、アートの中心的な価値として残ると予想されます。

昇司

AIが普及、浸透する時代では、アーティストが人間として一番注力すべきこと、AIと棲み分ける分野は何ですか？



AIの普及と浸透が進む中で、アーティストが人間として注力すべきことや、AIとの棲み分けを行う分野は以下のように考えられます：

感情の深度と細やかさ：人間は経験や感情を深く持ち、それをアートに反映することができます。

・AIはデータやアルゴリズムに基づいて作品を生成するが、人間のように感情の深さや細やかさを持つことは難しい。

人間の体験とストーリーテリング：人間は生きてきた経験をもとに、独自のストーリーやメッセージを持つ作品を創り上げることができます。このような深い人間的な体験やストーリーテリングは、AIが模倣することは難しいと考えられます。

試行錯誤と創造性：アーティストは、新しいアイデアや技法を試みる過程で、独自のスタイルや表現を見つける。

・このような試行錯誤の過程や創造性は、AIが持ち得ない人間独特の特性です。

哲学や倫理的な問題：アーティストは、哲学や倫理的な問題を取り上げ、それをアートを通じて表現することができる。

・このような深い思考や問い掛けは、AIのアルゴリズムやデータには含まれていないものです。

人間とのコミュニケーション：

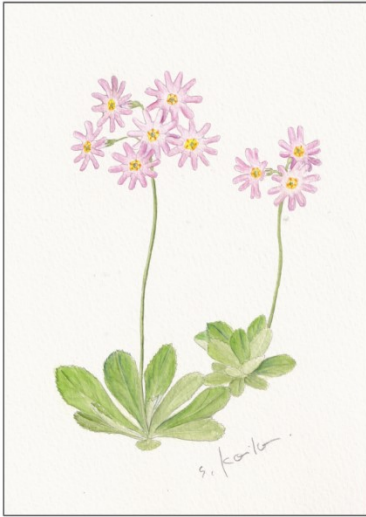
・アーティストは、観客や他のアーティストとのコミュニケーションを通じて、新しいインスピレーションを得たり、作品の意

味を深めたりすることができます。このような人間同士のコミュニケーションは、AI が持ち得ない特性です。  
 独自の視点と解釈： 同じテーマや材料であっても、それぞれのアーティストは独自の視点や解釈を持っています。  
 ・このような多様性や独自性は、AI が生成する作品とは異なる価値を持っています。

結論として、AI はアート創作過程を支援するツールとして非常に有用ですが、人間独特の感情や体験、哲学や倫理的な視点など、AI が持ち得ない要素がアートの中心的な価値として存在しています。アーティストは、このような人間独特の要素を最大限に活かし、AI との棲み分けを図ることで、新しい時代のアートを創り上げることができるでしょう。

## 6. ChatGPT を活用した絵画の評価と改善

### Before



承認しました。上記の項目に基づいて、提供された植物画についての評価と指導:

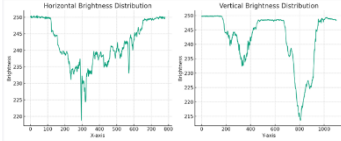
1. この絵画の構図について
2. この画像の配色について
3. この絵画のバールール（色価）について
4. 前後感、立体感をもっと顕著にする彩色法、描画法
5. 植物学的な博物画として欠けている要素
6. もっとドラマチックに描くための方法
7. リアリスティックに細部を描写するための観察の仕方
8. 色彩豊かなエキセントリックな絵画に変更するための心構え
9. 作者の個性を発揮する絵を描くための指導

### After

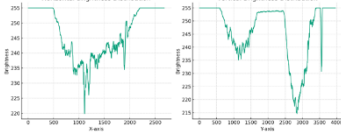


#### 6-1. 絵画の構図

Before



After



#### 1. この絵画の構図について:

横方向の明るさの分布: 画像の左右の端は比較的一定の明るさレベルを持っているが、中央付近で明るさが目立って低下している。これは、イラストの主要な被写体や要素が中央に配置され、中央に焦点が合っていることを示唆する。

縦方向の明るさの分布: 画像の上部と下部も一定の明るさを示しており、中央付近で明るさがはっきりと低下しています。これも中央に焦点が合っていることを補強しています。

良い点: 主要な被写体や要素が中央に集中しており、視覚的な焦点がはっきりとしている。

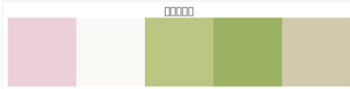
欠点: 要素が中央に集中しすぎており、画像の他の部分が空っぽに感じる。

改善策: 三分法のルール: 主要な被写体や要素が中央にある場合、それらをわずかに中央からずらすことを検討してください。三分法のルールを使用すると、よりダイナミックでバランスの取れた構図を作成できます。

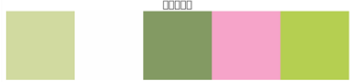
スペーシング: 異なる要素の間に十分なスペースを確保して、各要素が混雑しないようにし、各要素に独自の卓越性を持たせてください。

Before

#### 6-2. 主要な色彩



After



#### 2. この絵画の配色について:

良い点: ・色のバラエティ: このパレットには、薄くて明るい色から濃い色までの色が含まれており、イラストに深みとコントラストを持たせる潜在的な可能性があります。

・色の調和: 色彩は互いにうまく合っているように見え、イラストが調和している。

欠点: 一部の色が他の色とほとんど変わらないか、細部にしか使われていない。

改善策: 色の彩度を調整して、イラストをもっと鮮やかにするか、あるいはより落ち着いた雰囲気にすることができます。主要な色と他の色との間のコントラストを増やして、イラストの中の特定の部分を強調することができます。

#### 3. この絵画のバールール(色価)についての分析:

良い点: バールールが広範囲: 明るい色から暗い色までの幅広い色価が使用されている。これにより絵に深みとコントラストがもたらされます。

欠点: いくつかの色価領域が使用されていない可能性がある。これは、絵の中での中間色の欠如を示唆しているかもしれません。

改善策: 影やハイライトを強調することで絵の明るさの範囲を広げ、より多くの色価の領域をカバーすることができる。

